

山梨県

で



東京から近く支援制度が充実!



農家

になる。



アグリマスターの風間博文さんと。風間さんは青森の非農家出身。「山梨の人は地元になじめば何かと助けてくれますよ」。

Case 1

経験ゼロからスタートし 山梨特産の果樹農家に転身

ふえふえし
あじへゆういち
笛吹市 ● 跡部祐一さん(41歳)

果樹で就農できたのは 研修制度があったから

「果樹は技術的に難しいと思っていたので最初は考えていませんでした。池袋で開かれた新・農業人フェアの山梨県ブースで『果樹もいよ』とすすめていただいたのがきっかけです」

跡部祐一さんは山梨県笛吹市で平成25年に認定新規就農者として独立した。もとは埼玉県に住み、印刷やIT関連の会社に勤めるサラリーマン。以前から興味を持っていた農業は、転職先の選択肢の1つだった。とはいえ農作業の経験はゼロ。実行には不安があった。

「ですから会社を退職する前に、農業大学校の就農トレーニンング塾で週末体験から始めました」

立農業大学校山梨県

R中央本線長坂駅近くにあり、新宿から約2時間。ここに通って感触をつかんだ後、跡部さんは退職して山梨県に移住。農業は退職して長期研修を受けた。大学校で長期研修を受けた。「栽培技術だけでなく、経営など農家として独立するために必要なことを教わりました。また、進みたい方向に合った農家を紹介してもらい、かなりの時間、現場での研修もできました」



甲府盆地の南側、笛吹市に1ターンし、特産の果樹で新規就農した跡部祐一さん。モモの収穫は7月が最盛期。



しばらくアパートに住んだのち、アグリマスターのつながりで戸建てを借りた。





早生から晩生まで、数種類の品種を栽培して収穫時期をリレーする。品種の個性を生かすのも腕の見せどころ。

果樹栽培には数年の生活費や、機械など、初期費用が必要。跡部さんは中古を譲り受け、ガレージを自作して最低限の出費に抑えた。



農業大学の研修を修了した後は、山梨県独自の就農定着支援制度を活用。篤農家のアグリマスターのもとで実践的な農業を学び、その間は県から年間55万円の研修手当を受けることができた。

指導にあたるアグリマスターは県内に200人以上。その中から品目やエリア、経営スタイル、さらに相性を見極めて研修先を決める。跡部さんが選んだのは笛吹市内でモモやブドウなど果樹を中心に栽培する4軒のアグリマスターのグループ。アグリマスターの1人、風間博文さん(46歳)は言う。

「農家として生計を立てて、地域の担い手になってほしい。私たちの責任は重いですよ」

農家で研修した1年間、跡部さんは独立の準備を進めた。「研修が進むと農地や機械など、『使わないか』と地域の方から声をかけていただくようになりました。ありがたいです」

収穫したモモとブドウは地域の農協へ出荷。今後の売り上げ目標は1000万円。

「農家はサラリーマンとは違ってすべて自己責任。自分に合っていますね。農閑期には農協の青年部で旅行に行ったり、山梨の暮らしを楽しんでいますよ」

圃場面積はモモ約70aと写真のブドウ約60aと、目いっぱい広げた。「どこまでできるか、まずは経験です」。

果樹農家・跡部さんの作業カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
モモ				摘花	摘果	袋掛け	除袋 収穫				施肥	剪定
ブドウ	剪定		誘引	芽かき	新梢誘引 房作り	ジベレリン処理	摘房 摘粒 笠掛け	収穫			施肥	剪定

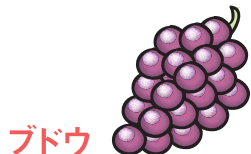
作業時期は品種によって異なるが、忙しいのは5月～7月。この時期だけ数人のアルバイトを頼む。このほか病害虫の防除作業も定期的に行う。少しゆっくりできるのは収穫後の秋。

山梨県の農業①

ブドウ・モモ・スモモは全国随一

富士山、ハケ岳、南アルプスと、山々に囲まれた山梨県は日照時間の長い内陸性気候で昼夜と夏冬の温度差が大きい。また、大消費地の東京から150km圏と流通にも有利な立地から、果樹を中心に野菜・水稲・花卉などの生産が盛ん。特にブドウ・モモ・スモモは全国トップの栽培面積と生産量を誇り、古くから品種や技術開発をリードしてきた。

県内には4つの地域に農務事務所があり、それぞれの地域の就農支援を行っている。県の担い手・農地対策室、塩野正和さんは言う。「ここ数年は新規就農者が増加中です。就農先として人気が高いのは、峡東地域の果樹、中北地域の野菜です。ほかの地域でも、さまざまな農作物がつくれますよ」



ブドウ

生産量は全国の24%。品種は巨峰、ピオーネ、甲斐路、ロザリオピアンコなど多岐にわたる。ワインの生産も盛ん。旬は7月下旬～10月下旬。



モモ

生産量は全国の34%。白鳳や浅間白桃が代表的な品種。旬は6月中旬～9月上旬。



スモモ

生産量は全国の32%。品種は大石早生、太陽、貴陽、サマービュート、サマーエンジェルなど。旬は6月中旬～9月上旬。

甲府まで新宿から特急電車で約90分



甲府まで新宿から車で約2時間
(中央自動車道経由)



佐藤信也さんと純子さん。今年は1歳になった娘の穂乃香ちゃんが保育園に通い始めて、昼間の農作業には2人で取り組んでいる。

Case **2**

野菜農家で独立5年目
年間売り上げ約1300万円

市川三郷町 ● 佐藤信也さん(31歳) 純子さん(41歳)

長い日照時間を生かした
特産野菜をしっかりと栽培

甲府駅から身延線^{みのぶ}で約30分。笛吹川の段丘に開けた市川三郷町は肥沃な土と長い日照時間に恵まれた野菜の産地である。農家になって5年目の佐藤信也さんは、妻の純子さんとともに約2畝を耕作。取材に伺った7月下旬は、主力のスイートコーンの収穫が終わり、ナスの出荷が始まる時期だ。

「夏場の収穫は朝4時半から7時までに行います。6月〜7月のスイートコーンは3時半から。そうしないと穫りきれません」

ナスの品種はポピュラーな千両二号だが、スイートコーンの主力は町特産の「甘々娘^{かんかんむすめ}」。食べるときにすぐわかる甘さが評判で、市場での価格もいい。佐藤さんはスイートコーンを今シーズン約5000箱800万円販売した。

「夫婦2人では限界の量だと思

います。でも機械代の返済もあるし、家も建て替えることになったので。ありがたいことに栽培が難しいと言われる甘々娘が、この町ではよくできるんです」

奮闘中の信也さんだが、もとは都内でプログラマーをしていた。就農の理由は外での仕事が合っていると思ったため。山梨県を選んだのは首都圏に近く販売に有利だと考えたことと、山が好きだから。独立前の2年間、JA西八代や市川三郷町が出資する農業法人・株式会社アグリ甲斐で農業協力隊として活動生産に携わりながら地域に溶け込み、農地や住まいを探した。



2人の趣味は登山。日本アルプスなど周囲を山々に囲まれている山梨県だが、農作業が忙しくなかなか登れない。





外でからだを動かすのが好き。自然に左右されるが基本的には自分の裁量で稼げるのが農業のよさ。



風よけのネット、スイートコーン栽培用のトンネル支柱など、それなりに資材費が必要。



トラクターはこのあたりでは大型の33馬力。購入には支援制度を活用。



住居は町の空き家バンクで見つけた。建て替えることになったので、現在は別のアパートに仮住まい中。



ナスは8月上旬から穫れ始める。値が上がる9月以降に本格的な収穫ができるよう管理する。

佐藤さんの作業カレンダー

スイートコーンは冬の日照を利用し、ビニールトンネルで2月から種蒔き。生育初期の温度管理は難しいが、5月から収穫できる。秋冬には野沢菜やチヂミホウレンソウも穫る。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スイートコーン	準備	種蒔き		収穫								
水田						田植え		管理		収穫		
ナス						植え付け	管理	収穫				
キウイフルーツ										収穫		
野沢菜								種蒔き			収穫	
チヂミホウレンソウ	収穫									種蒔き		収穫

佐藤さんはスイートコーンの通信販売も行っている。詳しくは[Kai Sweet Farm]のホームページを。 <http://kai-sweet-farm.com/>

山梨県の農業② 地域の気候に合わせた野菜生産も盛ん

山梨県は京浜の大消費地に近く日照に恵まれ、標高差の異なる地域ごとに特色ある野菜栽培が行われている。

甲府盆地周辺から笛吹川流域では、春先の豊富な日照を利用し、トンネルやハウスを用いて栽培、旬に先駆けて出荷するスイートコーンが特産。ナスやキュウリの栽培も盛ん。

ハケ岳南麓や富士北麓の高原は涼し

さを生かした夏秋のトマト、キャベツなどの産地。有機農業を営む農家も多い。また、富士山周辺ではスイートコーンや、豊富な湧水によるクレスンなどの特産野菜も栽培される。

甲斐市のサタイム[やはたいも]、市川三郷町の「大塚にんじん」、鳴沢村の「鳴沢菜」など伝統野菜のブランドも多い。

スイートコーン



山梨県の野菜生産額第2位。平坦地での早出し栽培や、高地の冷涼な気候を生かした夏の栽培が盛ん。また、各地域で品種の特性を生かした地域ブランドとして栽培。

トマト



豊富な日照や豊かな水資源など、トマト栽培にも適した環境。平坦地での施設栽培や高地での露地栽培が盛んで、近年は一般企業が大規模施設で養液栽培をする事例もある。

ナス



山梨県の野菜生産額第1位。豊富な日照や水資源を生かした栽培により高品質化を実現。主な産地は甲府盆地周辺から笛吹川流域エリア。

一方、都内で事務職をしていた純子さんは地方移住を考えて、見つけた研修先がアグリ甲斐だった。2人はここで出会い、独立と同時に結婚。その後、1年には穂乃香ちゃんが生まれた。「山梨県は新規就農者の受け入れに積極的で、担い手として応援してくれます。子どもも地域のみんなにかわいがられているんですよ」

「スイートコーンに夏秋のナス、晩秋の野沢菜、冬のチヂミホウレンソウなどを加え、農協や直売所、通信販売により年間売り上げは約1300万円になる。信也さんの目標はさらに規模を拡大し、研修を受け入れる側の農家になること。」

「いまは収益を上げることを考えて、長時間労働で頑張っています。でもサラリーマンとは違って時間の融通は利きますし、何よりやりがいがありますよ」

トマトは下段から色づき始める。7月上旬、明日からの出荷を待つ田中晃樹さん。



中玉トマトは高原エリアの北杜市が主要産地の1つ。比較的栽培しやすいうえ、価格も安定しているといわれる。



Case 3

トマト栽培の候補地を探し
支援を受けて高原の産地へ

北杜市 ● 田中晃樹さん(48歳)



40代後半からの挑戦も
支援する山梨県の制度

「トマト農家になろうと決めて、この場所を選びました」

と言うのは神奈川県から北杜市に移住した田中晃樹さん。子どもたちも独立し、会社を退職して夫婦で農業を始めた。

「最初は神奈川県で就農を考えましたが、条件の合う場所が

なくて。そこで訪ねたのが山梨県就農支援センターです。トマトなら農協の研修ハウスがあると紹介していただき、その後農業

県には独自の支援として年間55万円の研修手当があった。助かりましたよ」
独立して2年。今年は農協の研修用ハウスから、自前の農地に建てた約20坪のハウスに圃場を移した。面積は昨年の約2倍。「1年目の畑は肥料分にもばらつきがあり、広くなったので予想以上に大変です。でも何かあったとき尋ねられる人がすぐ近くにいたので心強いですよ」

大学校での研修も始めました」
さらに就農定着支援制度を利用し、アグリマスターからトマト栽培の技術と経営を教わった。

「私は研修中、45歳未満の制限がある国の給付金150万円がギリギリアウト。それでも山梨

トマトは7月～11月上旬に農協に出荷。冬は露地でチヂミホウレンソウを作付ける。昨年の売り上げは計500万円ほど。「農業には定年がありませんから、長く続けていきたいですね」



収穫と同時に芽かきなどの管理も続く。経験はなかったが、技術は研修で身につけた。



山梨県農政部、担い手・農地対策室の塩野正和さんと。5棟のハウスの設置には青年等就農資金の無利子の融資を利用。



圃場近くの家は、空いているのを地域の農家からの紹介で購入。出荷に便利な倉庫付き。



都会に住む移住希望者から地元の農家出身者まで多彩な顔ぶれが集まる週末農業塾。



収穫前の管理から、収穫、秋冬の剪定まで一通りの技術を学ぶ。



参加者に聞きました

川崎市から参加する木村さん夫妻はモモが大好き。「果樹の栽培を学べるコースがあるのには驚きました。次のステップを検討しています」。

お試し体験から就農前の研修まで!

専門学校山梨県立農業大学の 体験&研修プログラム

週末農業塾

専門学校山梨県立農業大学校では、1日体験からワンシーズンの研修までレベルに応じた就農支援プログラムを実施している。今回は週末農業塾の果樹(モモ、ブドウ)、野菜コースの中から、モモ栽培の1年を週末通いで学べるモモコースを訪ねた。

**初めて農作業する人から
実家が農家の人まで参加**

全国一のモモ産地でブランドイメージも高い山梨県。とはいえ現場の高齢化が進み、後継者の確保が課題。対策の1つが新規就農者の受け入れで、専門学校山梨県立農業大学校の週末農業塾はモモ栽培での就農への入り口になっている。

「5月から摘果や袋掛けなど4回作業して、5回目の前回は早



品種ごとに異なるサイズや熟度など、プロならではのノウハウが。

生種、今回は中生種の収穫です。9月からは施肥や剪定など秋の管理を覚えます」

収穫する樹になった大きなモモは浅間白桃。大ぶりで甘さたっぷり、山梨を代表する品種だ。

「十分な甘さが求められる品種なので、皮が赤くなったら穫りどきです」

と講師の鈴木秀一さんにはたくさん質問が。どの実を穫つたらいいか、出荷ルートはどこが有利か……。

参加者同士は講師も交え、打ち解けて和やか。

「いろんな人がいるのはこの研修のよさ。質問の幅が広がるうえ、情報交換ができます。就農後はお互い励みになりますよ」

専門学校山梨県立農業大学の 体験&研修プログラム

平日1日体験 **本気度☆☆☆**

60歳未満を対象に農業経験がなく体験したい人に。農業大学校園場で果樹または野菜栽培の体験。年間各10回開催。定員各2名。

週末2日体験 **本気度☆☆☆**

60歳未満を対象に農業経験がなく体験したい人に。土日の2日間、農業大学校園場で果樹または野菜栽培の体験。年間各3回開催。定員各3名。

週末農業塾 **本気度★★★★**

土曜日などの休日を利用して計10日間、栽培期間を通じた管理研修を行う。一定期間続けて体験したい人、栽培したい品目が決まっている人、実家の農業を継ぎたい人などに。

■コース/モモ、ブドウ、野菜(定員各10名/農業大学校園場にて)。有機農業(定員9名/3カ所の有機農家にて。各3名ずつ)。

職業訓練農業科 **本気度★★★★**

山梨県内の農業法人への就職などを予定する人向けの長期研修。栽培に関する座学や栽培実習、さらには先進農家での派遣実習なども充実。雇用保険適用可。

■コース/果樹、野菜、有機農業の各コース(9カ月)。短期野菜コース(6カ月)

詳しくは専門学校山梨県立農業大学校まで。

講師からのひと言

講師は笛吹市でモモやブドウを栽培する鈴木秀一さん。「来られる方は意欲があって、どんどん質問されます。技術だけでなく農家の暮らしまで広くお伝えしたいですね」。



問い合わせ
専門学校山梨県立農業大学校
☎0551-32-2269 (研修課)

山梨県北杜市長坂町長坂上条3251
(JR中央本線長坂駅より徒歩10分。
中央自動車道長坂インターより車で7分)

山梨県の 就農支援

山梨県の就農支援の特徴は、就農支援センターや各地域にある農務事務所での就農相談や、農業大学校での農業体験や長期研修、アグリマスターと呼ばれる篤農家のもとでの実践的な研修など、各段階に応じてさまざまな支援策があること。就農後の定着率は高い。

START

山梨で農業をやりたい!

山梨県就農支援センター

農業についての知識や経験の有無、年齢、家族構成、資金、本人の希望などに応じて就農へのステップと支援を選択

専門学校山梨県立農業大学校

知識や経験の少ない人 農業体験研修

↓
経験を深めたい人 週末農業塾

↓
就農を決意して1シーズン研修したい人 長期研修

就農定着支援制度

地域の先進農家・アグリマスターのもと、実践的な農業技術や経営ノウハウを習得する研修(1年程度)
国の青年就農給付金の活用も可能

就農計画の作成

生産・販売・資金計画→
青年等就農計画申請→認定新規就農者

就農に向けた準備

農地・住宅・機械・施設・資金などの確保

就農

GOAL

体験から就農定着まで
きめ細かくサポート

山梨県では、県内に就農しようとする熱意を持つ希望者が地域に根付いて農業で生計が立てられるよう、段階を追った支援制度を整えている。

就農相談のワンストップ窓口となる県就農支援センターの就農支援マネージャー、大島孝さんには、「方向性を決めて来る方から、まったく経験がなく漠然と農業がしたいと来る方まで、さまざまな相談を受けています。体験や研修など、その人に合った

方法や作物をおすすめして、一歩ずつ確実に前に進めるようにお手伝いするのが私たちの役割です」と言う。

プロの農家として独立するには地域の協力を得るのが早道。アグリマスターのもとで研修する就農定着支援制度は、技術を学ぶだけでなく、地域農家としての受け入れをスムーズにする。研修後の定着率は高い。

山梨県農政部担い手・農地対策室の塩野正和さんは言う。「地域に定着して農業で生活ができるよう、市町村などの関係機関と連携し、応援します」

なんでも相談
してください!

POINT 1 品目の選択・研修先などを紹介 就農支援センター

就農支援センターの支援内容

- 希望する経営スタイルや就農地域への助言
- 相談者の求めに応じた研修先(農業大学校、先進農家、農業法人)の紹介
- 就農支援資金の紹介
- 就農受け入れ支援情報の提供

そのほか就農相談会などの開催、就農支援情報(農地・空き家など)の提供、農業法人などからの求人受け付けと無料職業紹介など

山梨県就農支援センター
就農支援マネージャー
大島孝さん



POINT 2 体験から先進農家への派遣まで 経験に応じた研修が選べる

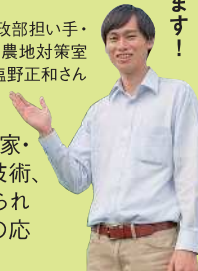
研修には1~2日の農業体験、週末ごとに通って学ぶ週末農業塾、長期にわたって行う研修などが用意されている。作物は果樹、野菜、有機野菜が選択でき、まったく経験のない人も、週末の体験から少しずつ試して農家転職に向けて自信を深められる。

就農後も一人前になるまで
しっかりサポートします!

POINT 3 アグリマスターのもとで 技術・経営・地域を学べる

就農定着支援制度では、就農に理解のある地域の先進農家・アグリマスターのもとで研修を受ける。希望の作物について技術、経営のノウハウを学ぶだけでなく、地域の担い手として認められることにより、農地や住宅の確保などさまざまな面で地域の応援を受けられる。

山梨県農政部担い手・
農地対策室
塩野正和さん



問い合わせ

山梨県就農支援センター

☎055-223-5747

甲府市宝1-21-20 NOSAI会館3階 (公財) 山梨県農業振興公社内

E-mail: ninaite@y-nk.jp